

第29回 ビタミンE研究会を主催して

大阪医科大学 医学教育センター 専門教授 瀧谷 公隆

平成30年1月27日（土）および28日（日）に、京都市の同志社大学今出川校地（至誠館）において、第29回ビタミンE研究会が開催された。同志社大学大学院・生命医科学研究科の市川寛教授（京都府立医科大学 消化器内科学教室のご出身）とともに本研究会の世話人を担当した。20日頃から寒波が日本全国を襲っており、研究会当日の天候が非常に心配されていた。27日午前中の京都は雪景色であったが、交通機関の大きな乱れもなく、研究会は定刻通り12時55分の市川教授の挨拶からスタートした。午後には雪もとけて、比較的過ごしやすい1日となった。

大阪医科大学小児科学教室の美濃眞名誉教授が本研究会の創立を画策され、平成元年9月に第1回の研究会（千里阪急ホテル）を主催された。また、第11回（平成12年1月・セとうち児島ホテル）および第18回（平成19年1月・ハウステンボス）では、玉井浩教授が世話人を担当された。美濃名誉教授の時代から小児科学教室は、ビタミンEを主題とした臨床および基礎研究を進めており、本研究会は小児科学教室と非常に縁が深い研究会である。ビタミン

E研究会は、脂溶性であるビタミンEに関する基礎研究（生化学、分子生物学、有機化学、工学など）から、栄養・臨床研究に至る幅広い分野を網羅する学際的な研究会である。そのため、参加者の研究分野は、工学・生化学・分子生物学・栄養・薬学・医学などにわたり、かなり多彩である。今回の参加人数は約80余名で、2日間の日程を通じて、活発な議論が展開された。また情報交換会が同志社大学構内にある寒梅館のフレンチレストランWillにおいて開催され、昼間に負けずおとらずの活発な議論がみられた。

今回の特別講演では、近畿大学医学部奈良病院小児科の虫明聡太郎教授と昭和薬科大学酸化ストレス研究室の小澤俊彦教授にお願いした。虫明教授には「小児肝疾患と栄養」の演題で、難治性の小児肝疾患での栄養評価および栄養サポートの重要性を講義していただいた。また小澤教授は放射線医学総合研究所の元理事であり、ラジカル研究がご専門である。「ラジカル研究の軌跡を追って」の題目で、この分野における研究発展の変遷を講義していただいた。いずれもわかりやすく、今後の我々の研究に役立つご講演であった。会の最後では、奨励賞の発表があり、3名の学生が選ばれた。いずれも甲乙付けがたい優秀なプレゼンテーションであった。吉川敏一代表幹事より表彰式が行われた。そして最後に瀧谷が挨拶をして、来年の第30回研究会（平成31年1月、仙台）での再会を約束し、研究会は閉会となった。

謝辞：本研究会の開催にあたり大阪医科大学医師会よりご支援を賜りました。医師会会員の皆様方に心より深謝申し上げます。



瀧谷の発表ポスターの前で
（左から瀧谷 公隆、市川 寛教授）